

## 研 究 成 果 情 報

平成 26 年度

かき「突核無」の着果管理作業と収穫作業の特徴		
[要約] 「突核無」の栽培管理に要する時間は、「平核無」に比べて、 <u>着果管理</u> は 0.4 倍と少なく、 <u>収穫</u> は 1.8 倍と多い。着果管理は生理落果防止のための <u>ジベレリン処理</u> のみで、収穫時期は「刀根早生」より早い。「刀根早生」「平核無」とは着果管理、収穫の作業時期は重ならない。		
新潟県農業総合研究所佐渡農業技術センター	連絡先	TEL 0259-63-4102
		FAX 0259-63-3972
新潟県農業総合研究所園芸研究センター 育種栽培科		TEL 0254-27-5555
		FAX 0254-27-2659

## [背景・ねらい]

「突核無」栽培では、極小サイズの果実を多数結実させることから、摘らいなどの着果制限をする「平核無」や「刀根早生」とは、着果管理や収穫の作業方法および時間が大きく異なる。そこで、「突核無」導入に必要な労力を明らかにするため、着果管理および収穫作業の特徴と時間を示す。

## [内容]

- 1 突核無の着果管理に必要な作業は、生理落果防止のためのジベレリン処理のみである。
- 2 ジベレリン処理時期は、満開 10 日後で、「平核無」満開の数日後にあたり、「平核無」の摘らい、摘果の時期と重ならない（図 1）
- 3 「平核無」の着果管理では 100 個の着らいのうち、84 個を落とし、収穫果数は 16 個となる。「突核無」は 100 個の着らい全てにジベレリン処理をするものの、収穫果数は 70 個と多く、1 個当たりの着果管理、収穫作業の所要時間は短い（表 1）。
- 4 樹または枝単位で一斉に収穫するのに適した時期は 9 月 30 日頃で、「刀根早生」の収穫盛期より 10 日程度早い（図 1）。
- 5 収穫では、収穫カゴの内側に設置した網袋に果実を入れると、果実を 200 個程度ずつまとめて扱うことができ、収穫コンテナへの搬入や脱渋処理時の作業が省力化できる（図 2）。
- 6 収穫果数を 30,000 個/10a とした場合、「平核無」の 10,000 個/10a と比べると、着果管理は 0.4 倍、収穫は 1.8 倍の作業時間を要する（表 2）。

## [導入効果]

「突核無」の栽培に要する時期別労力が提示され、品種導入が進む。

## [導入対象]

県内のかき生産者

## [留意点]

- 1 ジベレリンの薬剤費は 6,000 円/10 a 程度である。
- 2 「突核無」の生育特性は、平成 26 年度研究成果情報「小果実、種なし、高糖度で、まるごと食べられる「突核無」の特徴」を参照する。

[具体的データ]

着果管理

「突核無」	5/31頃 満開	6/10頃 ジベレリン処理
「刀根早生」・「平核無」	5/20頃～ 摘らい ～6/8頃	6/8頃 満開 6/25頃～摘果

収穫

「突核無」	9/30 ～一斉収穫～ 10/10
「刀根早生」	10/7始 10/13盛 10/17終
「平核無」	10/20始 10/29盛 11/10終

図1 「突核無」および「平核無」と「刀根早生」の着果管理・収穫時期  
 ＊平核無、刀根早生の開花日、収穫日は佐渡農業技術センターの調査による。

表1 100個の着りに要する管理作業と1個当たりの所要時間

作業	突核無		平核無	
	個数	所要時間	作業	所要時間
ジベレリン			摘らい	74個 2.0秒/個
処理	100個	1.2秒/個	摘果	10個 6.3秒/個
収穫	70個	4.7秒/個	収穫	16個 8.0秒/個

・両品種とも脚立不要の部位での調査。調査年次は平成25年で、平核無の着り状況は平年並みで、生理落果は極少であった。平核無の着果管理は慣行に準じた。ジベレリン処理はノズル付きハンドスプレーで1果ずつ散布。突核無の収穫作業は網袋を使用。両品種とも調整選別はせず、コンテナに搬入するまでの時間。



図2 収穫時の網袋の利用

表2 10a当たりの着果管理および収穫の作業時間

品種	着果管理作業			収穫作業
	摘らい	ジベレリン処理	摘果	
突核無	-	14時間	-	39時間
平核無	25時間	-	9時間	22時間

・10a当たり収穫果数を「突核無」は30,000果、「平核無」は10,000果として算出。  
 ・収穫は両品種とも一斉収穫によるもので、収穫後の選別調整作業は含まない。

[その他]

研究課題名：果実の新市場を創成する食べきり・手間なし「ベビーパーシモン」の生産供給技術の開発

予算区分：農林水産業・食品産業科学技術推進事業

研究期間：平成23～25年度 発表論文等：なし